

十勝川中流部市民協働会議_活動記録 (19)

帯工環境土木科 3 年生による自主研究

テーマ：光南地区水辺の楽校における流木の腐朽について (3 回目)

この活動は、昨年 8 月の洪水の爪痕である大量の流木について、流木処理を行わなくても時間の経過とともに流木が自然に戻るまでの過程を調査したいとの帯広工業高等学校環境土木科 3 年生の有志 3 名による志を受け、その活動に対して支援を行うものであります。



今回は、その第 3 回目の調査として、定期的調査のデータ収集として行いました。

- 日 時：平成 29 年 10 月 28 日 (土) 13:00~17:00
- 参加者：帯広工業高等学校 環境土木科 2 名
十勝川中流部市民協働会議事務局 4 名
- 場所：札内川左岸 光南地区 水辺の楽校
札内川光南地区 防災ステーション 13:00 集合
- 調査内容：硬度計測（針による貫入試験）と水分計測（含水比測定）



調査範囲箇所

活動支援内容：硬度計測（針による貫入試験）と水分計測（含水比測定）

調査は、木材の放置環境の違いによる腐朽速度を把握するため、今までの2回のデータと比較することを目的に以下の計測を行った。

- ①木材の水分量（含水比）の計測
- ②硬度計針貫入試験による木材硬度の計測

これらの継続的な調査によって、流木が腐朽（朽ちる）し、土に戻るまでの様子を記録することで、将来の河川維持管理に役立てられる貴重な資料になるものと考え、十中協はこの活動を支援していきます。



水分量の計測風景



硬度計の貫入試験の様子

流木の腐朽（朽ちる）が以下の4つの環境においてどのような違いが出るかを調査します。

[調査箇所-A]

調査箇所Aは、流木と生木を土中の半分程度埋め込んだ状態で放置し、腐朽速度を観察していきます。



[調査箇所-B]

調査箇所Bは、石原の上に放置ものと流木が堆積している上に放置した状態で調査していきます。



[調査箇所-C]

調査箇所Cは、石原の上に放置した状況で調査していきます。



[調査箇所-D]

調査箇所Dは、流木や細かい枝などが堆積した場所に放置した状況で調査します。



作業風景写真



作業開始前に作業手順を説明する前田氏



記録の仕方を指導する前田氏



水分量を測定している様子



硬度計の貫入試験の様子



水分量の計測と記録する様子



調査作業終了時の様子

ヤナギ腐朽度の測定記録

ヤナギ腐朽度調査記録は、1回目調査（8月7日、19日）、2回目調査（9月16日）、3回目調査（10月28日）の結果と、第4回目の調査を11月23日(木)に予定していますので、その結果が整理できましたら皆様にご報告します。